文化・芸術

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

「京茶碗」

1950年ごろ、紙本彩色
45・3チセン×37・7チセン

伊東深水（1898～1972年）

着物に身を包んだ上品なたたずまいの女性が、両手で京茶わんを持っています。落ち着いた金色の背景と着物の薄桃色が画面のほとんどを占める本作は、女性の髪の黒と京茶わんの深い茶、また女性の背後にひかれた一本の線によって引き締められ、シンプルにまとめられています。しかし、帯のまわりは三原色が使用されとてもカラフルになっており、自然と女性の持つ京茶わんへと視線が誘導されます。近づいてよく見てみると、女性の瞳と結い上げた髪のハイライトには、背景と同じ金色が使われており、髪からのぞく耳たぶや目元には薄桃色がさし込まれ、女性の艶やかさが表現されています。

美人画で知られる日本画家、伊東深水。画家の描く美人画の細やかな表現をぜひ間近でご鑑賞ください。

今週末の土曜日、1月26日に大川美術館では、講演会「着物で読書」が行われ、着物の方は入館料が半額となります。（池田）